

宗家的な立場の城でした。兵庫頭盛永の時、湊合戦が起り、湊方に加担したため檜山安東実季の臣石岡主膳に滅ぼされ落城しています。

城跡の南西部には、三浦氏ゆかりの真言宗常福院があり、境内には五輪塔・宝篋印塔（南北朝時代）などがあります。また浦大町・横町は、本城の城下町であって、近くには支城尼子館がありました。青磁・黄瀬戸・志野・越前系陶片が出土しています。

“菅江真澄も歩いた歴史の道「羽州街道」”から

NTT東日本秋田支社

うらよこまち【五城目町浦横町】

浦横町

高岳山の南麓に位置する。浦大町の東に接する。中世の横町村の地域。

〔近世〕浦横町村。江戸期～明治22年の村名。出羽国秋田郡のうち。秋田藩領。「正保国絵図」「元禄7郡絵図」に図示されず、「元禄郷帳」「天保郷帳」でも村名は記されず、いずれも浦大町村の中に含まれていた。藩士白土氏が藩家老梅津憲忠から与えられた寛永元年10月26日指紙に「浦之内横町前郷やち新開」、同4年9月7日指紙に「かた東之内浦分横町屋ち新開」とあり、浦（浦町村）のうち横町と称されていたことがわかる。

延宝9年7月20日岡氏宛指紙では「新田之分浦横町・同大町・小立花之百姓共二為作」とあり、浦横町は浦大町村・小立花村と並ぶ村となっていた様子を伝える（払戸渡部家文書）。「天和4年黒印高帳」には浦横町村当高299石余と明記。実際は寛文年間の郡村改めの際、浦町村から浦大町村と浦横町村が分村したと推定できる。「宝永2年黒印高帳」を経て、「享保黒印高帳」では村高258石余・当高255石余（うち本田140・本田並101・新田14）、「貫政村附帳」で当高255石余（ほとんど給分）と認定。

親郷一日市村の寄郷である。戸数は「享保郡邑記」「秋田風土記」ともに25軒。村鎮守は生土神

社。享保13年頃、枝郷に白井村3軒が存在したというが（町史）、その後は未詳。菅江真澄は当地方の調査の際、当村の小玉家に宿泊（氷魚の村君）。明治11年南秋田郡の村として戸長役場を一日市村とする9か村と連合。同22年南秋田郡面潟村の大字となる。

〔近代〕浦横町。明治22年～現在の大字名。はじめ面潟村、昭和31年からは八郎潟町、同33年からは五城目町の大字となる。

1980.3出版 角川日本地名大辞典 5 秋田県

浦横町

町村のマチは①田・ひとかこいの討地、②市場の意味がある。記録には五城目市の始まりは町村の市であるとある。市の立った村という名前である。

浦横町のマチは田の意味か市の意味か、はっきりしない。

五城目町史

えぞ【夜叉袋 夷蝦湊】

えぞ

蝦夷が正解だが、なぜかこの地名は漢字の順番が逆になっている。「土地台帳の写しの時に逆になったのでないか」というのが多くの意見だが、はたして真実は？

作者

えぞ

阿倍比羅夫が上陸したのがこの地 夷蝦湊だという伝説が残っている。比羅夫が鱒田の浦に上陸したという記述が『日本書紀』にある。しかし、鱒田の浦がどこか今だに確定されていない。当時は八郎潟がまだ湖の形をしておらず、男鹿が島だったということと、率浦（馬場目川流域とされる）という当時の地名から大きな入り江になっていたという説があり、この夜叉袋近辺に上陸したのではないかとする説がある。

八郎潟町史